

< 参 考 >

## フィリピンの電力事情について

### 1. フィリピンと東京電力の比較

|          | フィリピン                     | 東京電力                |
|----------|---------------------------|---------------------|
| 発電設備     | 1,561.9 万 kW              | 6,183.7 万 kW        |
| 水力       | 322.2 万 kW(20.6%)         | 899.3 万 kW(14.5%)   |
| 火力       | 1,039.3 万 kW(66.5%)       | 3,553.3 万 kW(57.5%) |
| 地熱       | 197.8 万 kW(12.7%)         | 0.3 万 kW(0.0%)      |
| 原子力      | -                         | 1,730.8 万 kW(28.0%) |
| 新エネルギー   | 2.6 万 kW(0.2%)            | 0.1 万 kW(0.0%)      |
| 最大電力     | 845.5 万 kW <sup>(*)</sup> | 5,745 万 kW          |
| 需要/販売電力量 | 565.7 億 kWh               | 2,886.6 億 kWh       |

(フィリピン：2005 年末、<sup>(\*)</sup>2004 年、当社 2005 年度末)

### 2. 国営フィリピン電力公社(NPC)について

エネルギー開発・利用等の政策の企画・立案・監督などを担当するエネルギー省の下で、国営フィリピン電力公社は、発電事業、IPP 契約などを担っている。今後フィリピン政府は、NPC 発電資産を民間に売却し、IPP 契約は PSALM(国営の電力部門資産・負債管理会社)に移管する予定。

### 3. 電力需要

両社が IPP 事業を行うルソン地域では、今後 10 年間に最大電力が年平均 4%程度増加すると予想されており、2010 年頃から電力需給の逼迫が深刻化すると予想されている。

以 上